

秋田真志（あきた まさし）

1963（昭和38）年8月6日生まれ。大阪府大阪市出身。

- 1986（昭和61）年 司法試験合格
- 1987（昭和62）年3月 東京大学法学部卒業
- 1987（昭和62）年4月 第41期司法修習生
- 1989（平成元）年4月 大阪弁護士会登録
- 1994（平成6）年4月 秋田真志法律事務所開設
- 2001（平成13）年4月 大阪弁護士会刑事弁護委員会副委員長
- 2003（平成15）年8月 日弁連取調べの可視化実現ワーキンググループ（事務局次長）
- 2004（平成16）年3月 大阪弁護士会刑事弁護委員会裁判員制度対応PT委員
- 2004（平成16）年4月 甲南大学法科大学院教授（刑事法実務等）
- 2004（平成16）年5月 日弁連取調べの可視化実現委員会委員（事務局次長）
- 2004（平成16）年7月 日弁連裁判員制度実施本部委員
- 2005（平成17）年5月 日弁連取調べの可視化実現委員会事務局長代行
最高裁判所刑事規則制定諮問委員会幹事
- 2005（平成17）年9月 大阪弁護士会裁判員制度実施本部副本部長
- 2006（平成18）年5月 日弁連取調べの可視化実現本部事務局長
- 2007（平成19）年4月 京都大学法科大学院非常勤講師（刑事弁護の実務）（～2014年3月）
- 2008（平成20）年3月 取調べの可視化実現大阪本部副本部長
- 6月 N I T A 指導者研修講座修了
- 2012（平成24）年4月 大阪弁護士会刑事弁護委員会委員長（～2014年3月）
立命館大学法科大学院講師（～2014年3月）
- 6月 日弁連刑事弁護センター副委員長
日弁連取調べの可視化実現本部副本部長
日弁連刑事弁護関連研修等ワーキンググループ事務局長
- 2014（平成26）年6月 日弁連刑事弁護センター事務局長兼研修小委員会担当副委員長
日弁連国選弁護本部委員
日弁連国際刑事立法対策委員会
日弁連刑事弁護センターアフター法制審PT座長
- 2016（平成28）年6月 日弁連刑事弁護センター事務局長
- 2017（平成29）年4月 最高裁判所刑事訴訟規則制定諮問委員会幹事
- 2017（平成29）年9月 S B S 検証プロジェクト共同代表

日本刑法学会会員

ダイヤモンドルール研究会ワーキンググループ代表

S B S 検証プロジェクト共同代表

主要著書等

- * 「鉄道事故の再発防止を求めて一日米英の事故調査制度の研究」 共著（1998年5月）日本経済評論社
- * 「検察官による警察官調書の引写し問題－浮かび上がったワープロ調書の弊害」 季刊刑事弁護 29号 77頁（2002年春）現代人文社
- * 「少女供述の信用性－児童買春で被害児童の供述が信用できないとして無罪が言い渡された事例（大阪地判2002・12・13）」 季刊刑事弁護 35号 72頁（2003年秋）現代人文社
- * 「刑事証人尋問の研究－事例から反対尋問のテクニックを学ぶ」 共著（日本弁護士連合会編「平成一四年版現代法律実務の諸問題」 607頁（2003年8月）第一法規
- * 「密室の扉を開こう－今こそ取調べの録画・録音による可視化を」 大阪弁護士会刑事弁護委員会・刑弁情報 28号 2頁（2003年）
- * 「刑事弁護のスキルアップのために」 日本弁護士連合会編「平成一五年版現代法律実務の諸問題」 573頁（2004年7月）第一法規
- * 「取調べ可視化－密室への挑戦」 共著・成文堂（2004年）
- * 秋田真志・小林功武「実践の中で取調べの可視化を－被疑者ノートの試み」 季刊刑事弁護 39号 82頁（2004年）
- * 「シミュレーション公判前整理手続」 季刊刑事弁護 41号 58頁
- * 「公判前整理手続における証拠意見のあり方」 季刊刑事弁護 41号 82頁（2005年1月）現代人文社
- * 「オーストラリアの徹底した可視化事情」 季刊刑事弁護 41号 146頁（2005年1月）現代人文社
- * 「信楽列車事故－JR西日本と闘った4400日」 共著（2005年5月）現代人文社
- * 「証拠書類の取調べの問題点と弁護人のとるべき対応」 季刊刑事弁護 43号 38頁（2005年7月）
- * 「改正刑事訴訟規則と弁護活動」 季刊刑事弁護 44号 68頁（2005年10月）
- * 「取調べの可視化実現に向けての現状と課題」 自由と正義 56巻 11号（2005年11月号） 50頁
- * 「裁判員裁判と反対尋問技術」 自由と正義 57巻 7号（2006年7月号） 43頁
- * 「法廷弁護技術」 共著・日本弁護士連合会編（2007年）日本評論社
- * 「法廷弁護技術（第2版）」 共著・日本弁護士連合会編（2009年）日本評論社
- * 「実践！ 刑事証人尋問技術－事例から学ぶ尋問のダイヤモンドルール」 共著・ダイヤモンドルール研究会ワーキンググループ編（2009年）現代人文社
- * 「殺人罪－大人しい彼に殺意が芽生えるとき」 （村井 敏邦／後藤 貞人編「被告人の事情／弁護人の主張－裁判員になるあなたへ」 所収・法律文化社 2009年）
- * 「公判前整理手続と準備活動」 （後藤貞人、四宮 啓、高野 隆、早野貴文編「裁判員裁判 刑事弁護マニュアル」 所収・第一法規 2009年）
- * 「共同研究・刑事証拠開示のあり方」 共著・判例タイムズ 1387号 53号（2013年6月）
- * 「自白の任意性立証にどう対処するか」 （後藤昭、高野隆、岡慎一編著「刑事弁護の現代的課題」 所収・第一法規） 2013年9月

- * 「新制度によって予想される刑事弁護の変化と取るべき対応」自由と正義 65 号 22 頁 (2014 年 11 月号) 日本弁護士連合会
- * 「弁護人の立場からみた『新たな刑事司法制度』－法制化で問われる弁護実践」論究ジュリスト 2015 年冬号 106 頁
- * 「弁護人から見た裁判員裁判」法の支配 177 号 74 頁 (2015 年)
- * 秋田真志・森直也「シミュレーション 可視化時代の捜査弁護実践」季刊刑事弁護 82 号 31 頁
- * 「性犯罪の情状弁護－被害者の声、加害者の更生－」日本弁護士連合会編「平成二六年版現代法律実務の諸問題」549 頁 (2015 年 8 月) 第一法規
- * 「刑事訴訟法の改正について」日本弁護士連合会編「平成二七年版現代法律実務の諸問題」443 頁 (2016 年 8 月) 第一法規
- * 「刑事司法の新時代がやってくる－平成二七年刑訴法改正について知ろう－可視化から司法取引まで」共著・日本弁護士連合会編「平成二七年版現代法律実務の諸問題」469 頁 (2016 年 8 月) 第一法規
- * 「Q & A 平成 28 年改正刑事訴訟等のポイント」(小坂井久・青木和子・宮村啓太編・「捜査・公判協力型協議・合意制度(いわゆる司法取引)と刑事免責制度の導入」を担当)(2016 年 8 月) 新日本法規
- * 「新時代の刑事司法と刑事弁護の在り方」(刑法雑誌 56 卷 3 号 27 頁)(2017 年)
- * 「裁判員裁判時代における反対尋問技術」(浅田和茂先生古稀祝賀論文集[下巻]所収)(2016 年) 成文堂
- * 「弁護人の義務」刑事訴訟法判例百選[第 10 版]所収(2017 年 4 月) 有斐閣
- * 「弁護人立会権の実践と展望－弁護人は取調室で闘えるか」(シリーズ刑事司法を考える第 2 卷「捜査と弁護」所収 242 頁)(2017 年 8 月) 岩波書店
- * 「弁護人の予定主張明示義務と予定主張のあり方」(浦功編著「新時代の刑事弁護」所収 311 頁)(2017 年 9 月) 成文堂
- * 「実践! 刑事証人尋問技術 Part2－事例から学ぶ尋問のダイヤモンドルール」共著ダイヤモンドルール研究会ワーキンググループ編(2017 年) 現代人文社
- * 「司法取引に弁護士はどう対応すべきか」(法学セミナー 2018 年 1 月号) 日本評論社